

20歳代後半、30歳代の女性における、結婚意向の変化と結婚行動

(1) 意欲が高い女性ほど結婚に近づけるのか？

結婚意向（意欲）が実際の結婚選択とどのような関係にあるか、示してみた。ここでは、25歳、27歳、30歳当時での回答別に、その後5年間での結婚確率を計算している（図表-1）。

「すぐにでもしたい」と積極的に回答した女性が、5年以内に結婚する確率は、42.1%（25歳時）37.0%（28歳時）32.1%（30歳時）と、それぞれ最も高い結婚確率を示している。また、最も回答割合が高い、「いまはしたくないが、いずれはしたい」と回答した者の場合、37.7%（25歳時）25.3%（28歳時）15.9%（30歳時）と、「すぐにでもしたい」に次いで高い確率を示している。

これらに対して、結婚に対して消極的な態度を示していた女性はどうかだろうか。「必ずしもしなくてよい」と回答した者は、11.0～15.0%の確率で、5年以内に結婚しており、そして、年齢に関係なく、「したくない」と回答した者は、その後5年以内に結婚していないことがわかった。ここでは、年齢階層に関係なく、結婚に対する意欲が高ければ、結婚確率が高まることが確認できた。

図表 - 1 女性の結婚意向とその後の結婚確率

単位：%

25歳時点での回答	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳
すぐにでもしたい	10.5	18.4	31.5	36.8	42.1
いまはしたくないが、いずれはしたい	1.8	16.2	25.1	31.1	37.7
必ずしもしなくてもよい	5.0	10.0	15.0	15.0	15.0
したくない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
27歳時点での回答	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳
すぐにでもしたい	10.9	23.9	32.6	37.0	37.0
いまはしたくないが、いずれはしたい	3.8	12.4	17.2	22.6	25.3
必ずしもしなくてもよい	0.0	6.8	6.8	9.1	13.6
したくない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳時点での回答	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳
すぐにでもしたい	7.5	17.0	26.4	28.3	32.1
いまはしたくないが、いずれはしたい	2.8	11.7	13.8	13.8	15.9
必ずしもしなくてもよい	1.9	3.8	9.4	9.4	11.3
したくない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

* 分子は累積結婚者数、分母はサンプル数。

(2) 親の加齢が子どもの結婚選択をためらわせる

年齢が上がるにつれて、徐々に結婚意向が薄くなる傾向が見られた。この要因の一つとして、親の問題から結婚選択を逡巡することがある。「結婚するに当たって、あなたの親や家との関係で次のような難しい問題はありますか。」という質問に対して、「親を経済的に援助すること」、「親の世話（家事・介護・訪問など）をすること」を挙げている未婚者の割合は、31.5%（25～29歳）、39.7%（30～34歳）、46.9%（35～39歳）と加齢に伴い、大きく上昇している（図表 - 2、1998～2002年調査）。

この背景には、親の平均年齢が64.4歳（25～29歳）、65.4歳（30～34歳）、68.5歳（35～39歳）と上昇しているだけでなく、両親健在の割合が、90.9%（25～29歳）、88.2%（30～34歳）、77.6%（35～39歳）と減少していることなどから、30歳代後半になると、実家の親が他界していることから、その年代の子を持つ多くの親が病気などで倒れやすくなっていることを示している。

ずっと先のことであった親の看病や介護の問題が徐々に現実味を帯び始めていることの現れと考えられる。実際に、結婚意向と親の問題との関係を見ると、30歳代前半までは、親の世話や、経済的負担を重視している者とそうでないものとの差はないが、30歳代後半以降では、重視している者の結婚意向が低くなっている（特に、「すぐにでもしたい」図表 - 3）。年齢が上がるにつれて、親の世話や援助の問題から結婚意向が消極的になり、（先の（1）でみたように、結婚意向と実際の結婚選択との正の相関関係を考慮すると）より結婚確率が下がる可能性が高くなる。

図表 - 2 親の問題から結婚を逡巡する割合（1998～2002年）

	単位：%			
	未婚女性全体*1	25～29歳	30～34歳	35～39歳
結婚の難問として親の経済的援助・世話を挙げる割合	36.7	31.5	39.7	46.9
サンプル数(人数)	1,519	705	519	258

*1 25～45歳

図表 - 3 親の問題と結婚意向との関係（1998～2002年）

	親の世話・経済的援助の負担感	単位：%					サンプル数(人数)
		(結婚する予定)	すぐにでもしたい	いまはしたくないが、いずれはしたい	必ずしもしなくてもよい	したくない	
25～29歳	なし	8.5	14.7	62.9	12.2	1.4	483
	あり	9.5	17.1	58.6	11.3	3.6	220
30～34歳	なし	5.4	16.0	53.0	23.0	2.6	313
	あり	4.9	18.9	50.5	21.8	3.9	206
35～39歳	なし	5.1	21.2	28.5	43.1	2.2	137
	あり	5.0	8.3	40.5	41.3	5.0	121

(3) 未婚女性は、30 歳代後半から、一人の生活（老後、独立、マイホーム）を考え始める。

貯蓄目的から、将来どういうことに備えようとしているのか、ひいては彼女たちがどのようなことに注目し、気に掛けているのかを考察したい。年齢階層別に、貯蓄目的（複数回答）についてみると、以下の3つの特徴が確認できた（図表 - 4）。

第一に、20 歳代では、（最も大きい割合を示している「特に目的はないが貯蓄していれば安心だから」（無目的）に次いで、）高い回答割合を示していた、「結婚資金に」の回答割合が、加齢とともに、50.0%（25～29 歳） 41.5%（30～34 歳） 34.3%（35～39 歳）と減少している。この動きは、30 歳代後半以降において、結婚意欲が薄れる傾向と軌を一にしている。とはいえ、未婚者の約 35%近くが結婚資金のために貯蓄しようとすることは興味深い。

第二に、「老後の生活に備えるため」の回答割合は、加齢とともに、30.6%（25～29 歳） 44.7%（30～34 歳） 48.4%（35～39 歳）と上昇していることがわかる。「結婚資金に」を理由とした貯蓄目的が薄れ、「結婚しない覚悟」が固まったことの表れであろうか。35 歳以降になると、未婚者の 50%弱が結婚に対して消極的になっているので、老後資金を蓄えていることが考えられる。

第三に、「マイホーム（土地を含む）の取得（立て替え、買い替えを含む）のため」では、6.3%（25～29 歳） 5.7%（30～34 歳） 17.9%（35～39 歳）と、30 歳代後半以降から上昇する傾向がみられる。

未婚者の関心事が、加齢とともに、結婚することよりも、マイホームの取得や老後生活の蓄えなど、結婚しないという覚悟により、自主独立したライフプランに変化していく過程をみることができた。

図表 - 4 未婚女性の貯蓄目的（複数回答）

貯蓄目的	単位：%			
	未婚女性全体*1	25～29歳	30～34歳	35～39歳
老後の生活に備えるため	38.6	30.6	44.7	48.4
病気、災害、その他の不時の出費	2.2	1.6	3.2	3.0
子どもの教育費に	0.7	0.9	0.0	0.0
マイホーム（土地を含む）の取得（立て替え、買い替えを含む）のため	8.4	6.3	5.7	17.9
耐久消費財の購入資金に	16.9	16.0	17.9	20.9
レジャー資金に	32.9	30.7	37.2	40.3
納税資金に	0.0	0.0	0.0	0.0
独立自営のための資金に	4.4	5.3	2.4	4.5
特に目的はないが貯蓄していれば安心だから	63.9	61.6	68.6	67.7
遺産として残すため	0.6	0.0	1.6	1.5
結婚資金に	44.4	50.0	41.5	34.3
その他	3.5	2.8	4.0	6.0
サンプル数（人数）	548	320	124	67

*1 25～45 歳